

オムニバス「栄唱に見るフィリピン音楽の窓」

Doxologia(Ily Matthew Maniano)

Gloria Patri(Bundi Yohanes Susanto)

テキスト

実はこの二つ教会典礼なのである。キリストの三位一体を祝う日本でいう栄唱にあたるテキストを二つとも取っているのだ。

Doxologia

Et clamabant voce magna dicentes:

Salus Deo nostro

Qui sedet super thronum et agno

Benedictio et claritas et sapientia

Gratiarum action et honor et virtus et fortitude

Deo nostro in specula saechlorum amen.

(英訳)

And they cried out with a loud voice saying:

Salvation to our God

Which sitteth upon the throne and to the lamb,

Blessing, and glory, and wisdom,

Thanksgiving, and honour and power and might

Be unto our God forebever and ever amen.

Gloria patri

Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.

Sicut erat in principio, et nunc, et semper, et in saecula saeculorum. Amen.

(英訳)

Glory to the Father and the Son and the Holy Spirit, now and forever and to the ages of ages. Amen

このオムニバスについて

東南アジアの合唱曲をご存知だろうか。民族性の高い東南アジアの合唱は時々コンクール等で日本でも顔を出すことがある。中でもパミントアン(作曲家)の作品などはかなり日本でもやられているのではないだろうか。(67期は学年合唱でやってたね)今回はその中でも優秀な合唱団があることによって多数の名作を生み出しているフィリピンという地域にフォーカスしてオムニバスを組んだ。それこそパミントアン氏の強力な主導の元、この地域の合唱は発展を遂げたのだが、ゴシック模様の音色やマドリガルっぽさを残した合唱作品が多く作られている。

また、フィリピンというアメリカの統治影響を長らく受けている国家ではキリスト今日が布教されており、西洋のものとこの地域のもので宗教曲を比べることができるのだ。今回はあえて二つとも栄唱を選ぶことによって、なぜか聞き覚えがあるのになんとなくちがう、エキゾチックな空間を楽しんでもらいたという意図があった。

譜面について

譜面については整理していないとかなり難しい構成になっている。

Doxologia

この曲については、下降音形でのポジションの位置というとても初歩的なところが一番の肝となってくる。その上でのレガート、持続性などに注意していけばいいのではないだろうか。端的に言えば倍音パレードにすればそれなりに形にはなるため、よくよくかんがえて構成できればなと考えている。しかしかなり正統派の音楽であることは間違い無いので、ある程度形になった後に詰めていくのが大変な曲であろう。

Gloria patri

最初にとんでもない音が配置してあって女声の方々は秒速でブチギレするのではないかと心配しているのだが、実際難しいのは男声である。あせるとこの音たち、リズムたちは絶対にはまらない。ゆっくりゆっくりする練習をしばらくしてみたいと思う。ただこの曲、参考音源のコメント欄を見てもらえばわかるように非常に演奏法が多用である。(もっとゆっくりマドリガル風にやる方法もあり、参考音源のコメント欄には「こんなのマドリガルじゃない！出直してきな！」みたいな悲慘なコメントも見受けられて地獄だった)(多少盛っている)ともあれ、そういうことを考えていくのも楽しいんじゃないかなあと。何よりこんなに面白い曲があることを知ってほしいなあとと思う。余談だが参考音源の女声のタトゥーがやばい。